

更生保護女性会会長賞

ルールより法律より雰囲気

堺市立 登美丘中学校 三年

野里 光

私はこの世の中の犯罪を減らしたり増やしたりする主な要因は、法律ではなく雰囲気だと考える。

皆さんは割れ窓理論をご存知だろうか。これは、アメリカの犯罪学者ジョージ・ケリング氏による理論で、「建物の窓が割れるのを放置しておくとも誰も注意を払っていない象徴となり、やがて他の窓もまもなく全て壊される」との考え方からこの名がある理論だ。

つまり、この理論では些細な綻びが生まれることによって、「それまで保たれてきた和を乱さずにいよう」という雰囲気が薄れていき、更なる問題が引き起こされてしまうということが示されている。犯罪そのものがいけないという雰囲気が薄れていくと、その場所が軽犯罪の巣のようになってしまい、さらには、殺人などの重大な犯罪へ拡大していくといえるのではないだろうか。

しかし、これは裏を返せば、小さな問題でも日頃からしっかりと対処していれば、良い雰囲気が保たれて犯罪が起こりにくい街を作ることにつながると考える。

では、犯罪が起こりにくい雰囲気とはなんだろうか。私は二つあると思う。

一つ目は地域住民同士の団結しあえる雰囲気だ。団結しあえる雰囲気を作るとみんなにとって良い環境を作るようになり、和を乱そうとする人が少なくなるので犯罪の抑止力につながると思うからだ。

実際に私が学年代表をしていた時、学年全体で「自立団結」をスローガンとして掲げて団結しあえる雰囲気を大切にするように呼びかけていた。すると割れ窓理論のようにその雰囲気が和を乱す人を減らし、自主的にチャイム着席を守るようになり忘れ物の減少につながったことを私は覚えていてる。

老人会やPTA保護会、自治会のような住民が協力して作り上げていく団体は、住民同士の団結を生むことにおいて非常に貢献しているはずだ。だから私達は、自治会などが主催するイベントなどの地域の活性化活動に参加し、ともに地域の未来を考えることによって、これらの団結の会の輪を広げていくべきだと思う。

団結しあうことは大切であると言える。そのような団結は、きっと犯罪を減らすことにつながるだろう。

二つ目は、明るい話題によって生まれる、和やかな雰囲気だ。

人が、犯罪を犯す根本的な理由としてストレスというものと、ニュースで耳にしたことがある。要はそのようなストレスさえ少しでも軽減できれば減る犯罪があるということだ。

ではどのようにして、そのストレスを軽減していくのだろうか。そう、明るい話題を皆で出し合い、全体として和やかな雰囲気を作ることだ。

アメリカで十九世紀に行われた調査がある。独房で誰とも話せない状態が続いたとき、精神状態は正常に保つことができるのかというものであった。この調査では、一定期間を過ぎると、ストレスのため多くの人が自殺をしようとしたり鬱状態になることが証明された。そのため、現在国連では、十五日を超える独房生活を精神的拷問とみなし禁止しているようだ。

今の私達の制限された感染症対策にも同じところがあるように思える。実際、コロナ禍では、外出制限のため直接的な犯罪は減ったものの、サイバー犯罪は二〇二〇年二月から四月の間に二三八%も増加したそうだ。

このような事例から見るとストレスは心に余裕がなくなると、精神的にしんどくなり生まれるものだと思う。しかし、今の私達

がこの精神的拷問と違う点はみんなで話しあえることだ。

だから、私は明るい話題を発信していくべきだと思う。

以前、私はテストの結果がひどく落ち込んで帰ってきたことがあった。そんな時に、友達から「明日、五十五分集合な」とLINEが来た。何気ないLINEだったけれど私は、その明るい一通で前向きに考えることができた。その時私の中には、張り詰めた落胆ではなく、未来に対して少し前向きになれるような和やかな雰囲気が流れていた。

だから、明るい話題によって生まれる和やかな雰囲気は、犯罪のきっかけとなるストレスを減らしてくれると考える。

私達は、新型コロナウイルスという名の困難の前に、つい団結すること、明るい話題を増やすことを忘れてしまい、それによって彩を失ってしまった日々への不満をSNS等で人を揶揄して解消しようとするところがある。ネットでの誹謗中傷もその一つである。その時、私のこの社明文を思い出してほしい。協力し、明日へ希望を持つ雰囲気がこの社会を更生する力になることを忘れないでほしい。その腕を止めて代わりに明るい話題を書いてほしい。そう、ルールよりも法律よりも雰囲気なのである。